

Title	編集後記(泌尿器科紀要 第9巻第2号)
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (1963), 9(2): 114-114
Issue Date	1963-02
URL	http://hdl.handle.net/2433/112404
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

編 集 後 記

泌尿器科ニ関係ノアル科目ハ種々アルガ 特ニ密接ナ関係ノアルノハ 外科デアル。ソレデ 泌尿器科ト外科トノ関係ニ就イテ考エテミヨウ。先ズ泌科ノ性格デアルガ 広義ニ解釈スルト 泌尿器ト男子性器ノ全テノ疾患ヲ対象トスル。所謂 内科的又ハ外科的疾患ノ如何ヲ問ワズ 狭義ニハ 主ニ外科的疾患ヲ対象トスル。即チ外科ノ一分科デアリ 泌尿器外科ノ名称ニ値スルト ノ考エデアル。コノ兩者ノ考エ方ニハ夫々道理ガアル。實際ニ 膀胱炎 性障害 神経障害 ソノ他 普通ニハ外科的疾患ト考エラレテイナイ多クノ疾患ヲ対象トシテイル点カラ云エバ 広義ニ考エラレルシ 又 事実上ハ 手術的治療法ガ多ク行ワレル点カラ云エバ 狭義ニモ考エラレル。ヤハリ 本当ノトコロハ 腎炎 ネフローゼ等ハ大体ニ取扱ワナイガ 泌尿・男性器ヲ広く 対象トスル専門科目デアロウ 従ツテ コノ領域ノ疾患ハ 泌尿器科ニテ取扱 ウノガ本当デアアル。泌科ガ判然ト独立シテイナカッタ時代ニ於テハ 外科ニテ片手間ニ扱ワレタガ 現在ニテハ 殊ニ大学病院トカ総合病院ニ於テハ 泌科領域ノ患者ハ泌科ニ送ツテホシイ。泌科ノ設備ノナイ 場合ニモ 何ラカノ方法ヲ講ジテ 泌科ノ診療ヲ受ケルヨウニシテホシイ。現今ノ泌科ハ 昔ト 異ナリ 診断法 治療法ニ於テ大イニ進歩シ 専門的ノ修練ヲ経タ者デナケレバ 妥当ナ診療ハ 不可能ニナツテイル。然シ外科ノ方ニモ云イ分ガアルカモ知レヌ 外科医トシテハ一応広イ分野 ニ亙ツテ修業シテオカネバナラヌト。ソレモ尤モナヨウデハアルガ モンソウナラバ 外科医ハ 脳 肺 心 整形 産婦人科 耳科等ノ外科的診療ニモ通ジテイナケレバナラヌ寡ニナル ソレハ不可能デアロウ。若シ可能トスレバ 極メテ浅薄ナ知識ト技能トニナリ 責任アル診療ハ到底 無理デアアル。従ツテ 現代ニ於テハ 一般外科ニ於テ泌科ノ診療ヲ行ウ事ハ 責任アル態度トハ 云エナイ。緊急止ムヲ得ザル場合ハ別トシテモ ソレ以外ノ場合ニハ 医道ノ上カラモ正シイト ハ云ワレナイ。殊ニ泌科ノ設備ノアル大病院ニテハ然リ。

大学病院ヤ総合病院ニテ泌科ガ独立シテ盛大ニナルタメニハ 泌科志望ノ医師ガ多クナラネバ ナラヌ 又 泌科トシテハ専門医制度ヲ作ル事ガ必要デアル 日本泌尿器科学会トシテモ 今後 ハコノ方向ニ強クニ進ミタイモノデアル(昭和38年1月)

大学教官モ含メテノ勤務医師ノ待遇ヲ上ゲル必要ノアル事ヲ 私ハ常ニ主張シテイルノデアルガ 先日ノ新聞ニヨルト 池田首相ガ大学教官ノ待遇ヲ改善スル必要ガアルト云ツタノニ對シテ 某役人ガ 大学教授ノ俸給ヲ上ゲルト 次官ヨリ上ニナルカラ困ルト云イ 首相モ ソウカト云 ツテ ソレキリニナツタ由デアル。アキレタ話ダ。大学教授ノ俸給ガ次官ヨリ上ニナツテハ何故 ワルイノカ。全部ノ大学教授ヲ次官ヨリ上ニスルノデハナクテ 幅ヲ作レバヨイノデアル。首相ガ大学教官ノ待遇ニ意ヲ用イタノハヨイガ コレモ大学教授ハ次官ヨリ下デアルト思ツテイルラ シイ。役人ト云イ 首相ト云イ コレデ 教育 科学ノ尊重 人ヅクリト云エルカ

国立大学長ノ俸給ハ平均13~14万デアルガ コレヲ認証官ニシテ16~18万ニシヨウトノ案ガ伝 エラレル。トコロガ国会議員ハ普通ノ月ニハ27万余 国会開會中ハ32万ニ引キ上ゲヨウトノ案ガ 一人ノ反対モナシニ決ツタトノ事デアル。選挙トナレバ棄権セズニ投票セト云ウガ 折角 投票シテモ 当選シタ議員ガコレデハ 議員ヲ選ブト云ウ事ハ ドウ云ウ事ニナルノカ判ラヌ 投票スル意欲ガナクナツテモ致シ方ナイノデハナイカ。唯 俸給ダケノ事ヲ云ツテイルノデハナ イ ソノ心根ヲ情ケナイト思ウノデアル。コノ議案ヲ 反対セズニ通シタ議員ハ 党籍ノ如何ニ 拘ラズ 尊敬スル事ガ出来ナイ



旧帝大ノ国立大学長ヲ認証官ニシヨウトノ政府案ガ伝エラレタ時ニ ドノ大学長カラモ 何ラ ノ意見ガ出サレズニ 沈黙 承認ノヨウナ印象ヲ与エタノハ 何ダカ不透明ノ感ジガシタ 然シ ソノ制度ガ全クワルイトモ云エナイデ 必ズシモ直チニ反対セネバナラヌ事モナイ。唯 ソノ 意図ガ奈辺ニアルカニヨツテ 問題ヲ含ンデイルヨウダ コレニヨツテ政府ノ威力ヲ誇示シ 学 長ニ一種ノ束縛ヲ加エヨウトノ底意ガアツテハ困ルシ 形式主義モ賛成出来ナイ 学長ヲ優遇シ ヨウトスルナラバ モット他ノ方法デ行エバヨイ 国会議員ハ32万 大学長ハ16~18万デハ 優 遇ニモナラヌ ソノ後 京大平沢総長ハ 学生トノ問答ニ於テ 認証官制ハ個人トシテハ反対ダ トノ意向ヲ明カニシタ(昭和38年2月)。

印刷所ノ手違イニヨツテ 12月号ノ編集後記ガ1月号ニ再掲セラレタノデ ココニハ1月ト2 月ノ2カ月分ヲ掲載シタ